

令和 7 年度 社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス海老名総合病院 医師労働時間短縮計画

1. 計画期間

令和 7 年 4 月 1 日 ～ 令和 8 年 3 月 31 日

2. 対象医師

外科医師（8 名）	消化器内科医師（5 名）	糖尿病内科医師（3 名）
循環器内科医師（10 名）	心臓血管外科医師（3 名）	産婦人科医師（6 名）
形成外科医師（2 名）	歯科・歯科口腔外科医師（2 名）	整形外科医師（5 名）
脳神経外科医師（3 名）	泌尿器科医師（4 名）	麻酔科医師（3 名）
リハビリテーション科医師（1 名）	眼科医師（2 名）	放射線科医師（5 名）
病理診断科医師（2 名）	呼吸器外科医師（1 名）	血液内科医師（4 名）
呼吸器内科医師（3 名）	小児科医師（5 名）	腎臓内科医師（2 名）
総合診療科医師（4 名）	救急集中治療科医師（7 名）	乳腺外科（1 名）
神経内科医師（1 名）	専攻医（5 名）	臨床研修医（17 名）

3. 労働時間と組織管理

(1) 労働時間数

外科医師（8 名）

年間の時間外・休日労働時間数	前年度実績	当年度目標	計画期間終了 年度の目標
平均	474 時間 25 分	1710 時間	1710 時間
最長	998 時間 24 分	1710 時間	1710 時間
960 時間超～1,860 時間の人数・割合	1 人 12.5%	0 人 0%	0 人 0%
1860 時間超の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%

消化器内科医師（5 名）

年間の時間外・休日労働時間数	前年度実績	当年度目標	計画期間終了 年度の目標
平均	185 時間 49 分	960 時間	960 時間
最長	493 時間 38 分	960 時間	960 時間
960 時間超～1,860 時間の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%
1860 時間超の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%

糖尿病内科医師（3名）

年間の時間外・休日労働時間数	前年度実績	当年度目標	計画期間終了 年度の目標
平均	78 時間 31 分	960 時間	960 時間
最長	188 時間 55 分	960 時間	960 時間
960 時間超～1,860 時間の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%
1860 時間超の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%

循環器内科医師（10名）

年間の時間外・休日労働時間数	前年度実績	当年度目標	計画期間終了 年度の目標
平均	258 時間 25 分	1710 時間	1710 時間
最長	458 時間 54 分	1710 時間	1710 時間
960 時間超～1,860 時間の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%
1860 時間超の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%

心臓血管外科医師（3名）

年間の時間外・休日労働時間数	前年度実績	当年度目標	計画期間終了 年度の目標
平均	578 時間 47 分	1710 時間	1710 時間
最長	978 時間 39 分	1710 時間	1710 時間
960 時間超～1,860 時間の人数・割合	1 人 33.3%	0 人 0%	0 人 0%
1860 時間超の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%

産婦人科医師（6名）

年間の時間外・休日労働時間数	前年度実績	当年度目標	計画期間終了 年度の目標
平均	272 時間 58 分	1710 時間	1710 時間
最長	835 時間 29 分	1710 時間	1710 時間
960 時間超～1,860 時間の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%
1860 時間超の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%

形成外科医師（2名）

年間の時間外・休日労働時間数	前年度実績	当年度目標	計画期間終了 年度の目標
平均	137 時間 21 分	960 時間	960 時間
最長	265 時間 18 分	960 時間	960 時間
960 時間超～1,860 時間の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%
1860 時間超の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%

歯科・歯科口腔外科医師（2名）

年間の時間外・休日労働時間数	前年度実績	当年度目標	計画期間終了 年度の目標
平均	35 時間 50 分	960 時間	960 時間
最長	64 時間 52 分	960 時間	960 時間
960 時間超～1,860 時間の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%
1860 時間超の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%

整形外科医師（4名）

年間の時間外・休日労働時間数	前年度実績	当年度目標	計画期間終了 年度の目標
平均	299 時間 13 分	960 時間	960 時間
最長	379 時間 37 分	960 時間	960 時間
960 時間超～1,860 時間の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%
1860 時間超の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%

脳神経外科医師（3名）

年間の時間外・休日労働時間数	前年度実績	当年度目標	計画期間終了 年度の目標
平均	362 時間 04 分	960 時間	960 時間
最長	394 時間 47 分	960 時間	960 時間
960 時間超～1,860 時間の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%
1860 時間超の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%

泌尿器科医師（４名）

年間の時間外・休日労働時間数	前年度実績	当年度目標	計画期間終了 年度の目標
平均	275 時間 48 分	1710 時間	1710 時間
最長	477 時間 25 分	1710 時間	1710 時間
960 時間超～1,860 時間の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%
1860 時間超の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%

麻酔科医師（３名）

年間の時間外・休日労働時間数	前年度実績	当年度目標	計画期間終了 年度の目標
平均	214 時間 55 分	960 時間	960 時間
最長	252 時間 5 分	960 時間	960 時間
960 時間超～1,860 時間の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%
1860 時間超の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%

リハビリテーション科医師（１名）

年間の時間外・休日労働時間数	前年度実績	当年度目標	計画期間終了 年度の目標
平均	0 時間 0 分	960 時間	960 時間
最長	0 時間 0 分	960 時間	960 時間
960 時間超～1,860 時間の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%
1860 時間超の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%

眼科医師（２名）

年間の時間外・休日労働時間数	前年度実績	当年度目標	計画期間終了 年度の目標
平均	52 時間 58 分	960 時間	960 時間
最長	53 時間 55 分	960 時間	960 時間
960 時間超～1,860 時間の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%
1860 時間超の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%

放射線科医師（5名）

年間の時間外・休日労働時間数	前年度実績	当年度目標	計画期間終了 年度の目標
平均	96 時間 25 分	960 時間	960 時間
最長	291 時間 54 分	960 時間	960 時間
960 時間超～1,860 時間の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%
1860 時間超の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%

病理診断科医師（2名）

年間の時間外・休日労働時間数	前年度実績	当年度目標	計画期間終了 年度の目標
平均	322 時間 55 分	960 時間	960 時間
最長	638 時間 26 分	960 時間	960 時間
960 時間超～1,860 時間の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%
1860 時間超の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%

呼吸器外科医師（1名）

年間の時間外・休日労働時間数	前年度実績	当年度目標	計画期間終了 年度の目標
平均	712 時間 49 分	960 時間	960 時間
最長	712 時間 49 分	960 時間	960 時間
960 時間超～1,860 時間の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%
1860 時間超の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%

血液内科医師（4名）

年間の時間外・休日労働時間数	前年度実績	当年度目標	計画期間終了 年度の目標
平均	405 時間 57 分	960 時間	960 時間
最長	774 時間 20 分	960 時間	960 時間
960 時間超～1,860 時間の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%
1860 時間超の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%

呼吸器内科医師（3名）

年間の時間外・休日労働時間数	前年度実績	当年度目標	計画期間終了 年度の目標
平均	301 時間 49 分	960 時間	960 時間
最長	430 時間 35 分	960 時間	960 時間
960 時間超～1,860 時間の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%
1860 時間超の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%

小児科医師（5名）

年間の時間外・休日労働時間数	前年度実績	当年度目標	計画期間終了 年度の目標
平均	206 時間 23 分	960 時間	960 時間
最長	286 時間 8 分	960 時間	960 時間
960 時間超～1,860 時間の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%
1860 時間超の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%

腎臓内科医師（2名）

年間の時間外・休日労働時間数	前年度実績	当年度目標	計画期間終了 年度の目標
平均	550 時間 26 分	1710 時間	1710 時間
最長	1034 時間 56 分	1710 時間	1710 時間
960 時間超～1,860 時間の人数・割合	1 人 50%	0 人 0%	0 人 0%
1860 時間超の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%

総合診療科医師（4名）

年間の時間外・休日労働時間数	前年度実績	当年度目標	計画期間終了 年度の目標
平均	185 時間 03 分	1710 時間	1710 時間
最長	532 時間 08 分	1710 時間	1710 時間
960 時間超～1,860 時間の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%
1860 時間超の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%

救急集中治療科医師（7名）

年間の時間外・休日労働時間数	前年度実績	当年度目標	計画期間終了 年度の目標
平均	273 時間 19 分	1710 時間	1710 時間
最長	626 時間 12 分	1710 時間	1710 時間
960 時間超～1,860 時間の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%
1860 時間超の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%

乳腺外科（1名）

年間の時間外・休日労働時間数	前年度実績	当年度目標	計画期間終了 年度の目標
平均	11 時間 41 分	960 時間	960 時間
最長	11 時間 41 分	960 時間	960 時間
960 時間超～1,860 時間の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%
1860 時間超の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%

神経内科医師（1名）

年間の時間外・休日労働時間数	前年度実績	当年度目標	計画期間終了 年度の目標
平均	32 時間 26 分	960 時間	960 時間
最長	32 時間 26 分	960 時間	960 時間
960 時間超～1,860 時間の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%
1860 時間超の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%

専攻医（5名）

年間の時間外・休日労働時間数	前年度実績	当年度目標	計画期間終了 年度の目標
平均	109 時間 26 分	1710 時間	1710 時間
最長	186 時間 19 分	1710 時間	1710 時間
960 時間超～1,860 時間の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%
1860 時間超の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%

臨床研修医（17 名）

年間の時間外・休日労働時間数	前年度実績	当年度目標	計画期間終了 年度の目標
平均	444 時間 32 分	1710 時間	1710 時間
最長	608 時間 16 分	1710 時間	1710 時間
960 時間超～1,860 時間の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%
1860 時間超の人数・割合	0 人 0%	0 人 0%	0 人 0%

(2) 労務管理・健康管理

【労働時間管理方法】

前年度の取組実績	新勤怠管理システム（Timepro）を用いた、医師による申請及び部署長による承認制を導入し、正しい実績把握に取り組んだ。
当年度の取組目標	勤怠実績の分析を行い、より精緻な勤務実態の把握に努める。
計画期間中の取組目標	上記事項に取り組む。

【宿直許可の有無を踏まえた時間管理】

前年度の取組実績	内科、外科、整形外科、産婦人科、ICU、脳神経外科、小児科（非当番日に限る）、麻酔科において、宿日直許可申請を行い、許可を得た。
当年度の取組目標	宿直中の業務を申告制とすることで、業務時間の把握を可能にした。内容の精査等を行い業務状況の把握、改善に努める。
計画期間中の取組目標	上記事項に取り組む。

【医師の研鑽の労働時間該当性を明確化するための手続等】

前年度の取組実績	国の定める自己研鑽と時間外労働の概要を医局会にて説明した。
当年度の取組目標	勤怠マニュアルに自己研鑽の内容についての項目を盛り込み、更なる周知強化を行う。
計画期間中の取組目標	上記事項を適切に管理する。

【労使の話し合い、36 協定の締結】

前年度の取組実績	働き方改革委員会を月 1 回開催する。なお、雇用契約時には 36 協定を適切に締結している。
当年度の取組目標	上記事項に取り組む。
計画期間中の取組目標	同上

【衛生委員会、産業医等の活用、面接指導の実施体制】

前年度の取組実績	安全衛生委員会を月 1 回開催している。また、健康診断を年 2 回実施している。
当年度の取組目標	上記事項に取り組む。
計画期間中の取組目標	同上

【追加的健康確保措置の実施】

前年度の取組実績	・ 連続勤務時間制限や勤務間隔インターバルのチェックを行い、付与すべき代償休息時間を集計するようにした。 ・ 面接指導の実施体制に係る規程を作成した。 ・ 面接指導実施医師を選任した。
当年度の取組目標	・ 連続勤務時間制限や勤務間隔インターバルの確保、代償休息確保を確実に実施する。 ・ 面接指導対象医師に対し面接指導を実施する。
計画期間中の取組目標	上記事項に取り組む。

(3) 意識改革・啓発

【管理者マネジメント研修】

前年度の取組実績	2024 年 12 月 4 日に副院長が「病院長を対象としたマネジメント研修」を受講。 別途、2024 年 12 月～2025 年 2 月にかけて、診療部長を対象に日本病院会主催の医師の働き方改革推進セミナー受講を行った。
当年度の取組目標	国等が実施する病院長向けの研修会に病院長、副院長が参加する。診療科部長等に向けた管理者のマネジメント研修を年 1 回以上開催し、受講させる。
計画期間中の取組目標	上記事項に取り組む。

(4) 策定プロセス

各職種（医師、看護師、コメディカル、事務）から代表者 14 名が参画する働き方改革委員会を月 1 回開催し、この計画の検討を行い策定した。策定の段階において、本計画の対象となる医師やタスク・シフト先となる職員を対象とした説明会を週 1 回開催し、意見交換を実施するとともに、策定後には本計画を医局のほか、各職種の職場に掲示している。

4. 労働時間短縮に向けた取組

(1) タスク・シフト／シェア

【看護師】

計画策定時点での取組実績	特定看護師を一名育成済。
計画期間中の取組目標	特定行為等、医師の指示に基づく業務拡大の検討を進める

【医師事務作業補助者】

計画策定時点での取組実績	医師事務作業補助体制加算 15 対 1 の届出を行い、医師の事務作業の負担軽減を進めた。
計画期間中の取組目標	診療録やクリニカルパスの代行入力、書類の作成補助、その他医師の事務作業のタスク・シフトを拡大する。

(2) 医師の業務の見直し

計画策定時点での取組実績	宿直許可制度の導入。一部診療科ではチーム制での診療体制を行っている。
計画期間中の取組目標	院内ではスマートフォンを試験導入し業務効率化に活用しており、今後、利用範囲の拡充を行う。

(3) その他の勤務環境改善

計画策定時点での取組実績	宿直明けに公休付与を行う体制を整備し、医師の負担軽減を行う。予定手術前日の当直や夜勤に対する配慮等を行い、予定手術前日の当直等（当直、夜勤及び緊急呼出し当番）や連続当直は原則行わず、最大 4 回までとする。
計画期間中の取組目標	上記事項に取り組む。

(4) 副業・兼業を行う医師の労働時間の管理

計画策定時点での取組実績	副業・兼業先の労働時間の実績をアンケートにより実施している。定期的な副業に変更が発生した時、あるいは臨時副業が発生した時などは、随時医局に報告するようにする。
計画期間中の取組目標	以降定期的に実施し把握・管理する。

(5) C-1 水準を適用する臨床研修医及び専攻医の研修の効率化

計画策定時点での取組実績	毎月の臨床研修管理委員会において臨床研修医の労働時間の報告を行い、研修医全体の時間外労働の把握に努めている。
計画期間中の取組目標	2025 年 4 月より臨床研修医において準夜勤の導入を開始。当直回数を削減し、効率的な臨床能力の習得向上に努める

(6) 適切な 36 協定の締結・届出

【勤務体制の見直し方法】

計画策定時点での取組実績	なし
計画期間中の取組目標	36 協定の上限時間を超えた場合の対象医師の勤務体制の見直

	し等を検討するルールの整備を実施する。
--	---------------------

【医師から意見をくみ取る仕組み】

計画策定時点での取組実績	なし
計画期間中の取組目標	長時間労働医師への面談を適切に実施。 毎月の医局会において医師の勤怠状況などを報告するとともに、業務負担に関する意見を聞く場を設けている。

(7) 医師の労務管理における適切な労働時間の把握・管理体制

【労働ではない時間（主に自己研鑽）を把握する仕組み】

計画策定時点での取組実績	なし
計画期間中の取組目標	勤怠申請マニュアルを整備し手続きを明確化している。

【医師本人への労働時間の通知方法】

計画策定時点での取組実績	なし
計画期間中の取組目標	新たに導入した勤怠システムにより医師が自身の労働時間を把握できる仕組みを作っている。

(8) 医師の面接指導及び就業上の措置の実施体制

【産業医に相談可能な体制の整備】

計画策定時点での取組実績	なし
計画期間中の取組目標	面接指導対象医師が産業医に相談可能な体制を整備する。産業医の利用方法等を案内する。

【面接指導の実施にあたり、他職種がサポートする体制】

計画策定時点での取組実績	なし
計画期間中の取組目標	面接指導が円滑に実施にできるよう産業医、面接指導実施医師以外の職員を配置し、業務をサポートする体制を整備する。

(9) 医師の医師の適切な勤務計画の作成

【月の時間外・休日労働時間が上限を超えないような勤務計画】

計画策定時点での取組実績	なし
計画期間中の取組目標	一部診療科においてはシフト制を導入し、月の労働時間の管理を行っている。

	その他診療科についても、月の労働時間の状況を把握し、当直回数を減らすなどの取り組みを行っている。
--	---

【法定休日が確保された勤務計画】

計画策定時点での取組実績	なし
計画期間中の取組目標	一部診療科においてはシフト制を導入し、月の労働時間の管理を行っている。 その他診療科についても、月の労働時間の状況を把握し、当直回数を減らすなどの取り組みを行っている。

【副業・兼業先の労働時間を含めた勤務計画】

計画策定時点での取組実績	なし
計画期間中の取組目標	外勤先での勤務実態把握を行っている。 一部シフト制導入の診療科においては外勤を鑑みた勤務シフトを策定している。 他診療科における勤務状況に応じた勤務計画の作成については今後の課題となっている。

【宿日直許可の有無による取扱いを踏まえた勤務計画】

計画策定時点での取組実績	なし
計画期間中の取組目標	宿日直許可の有無による取扱いを踏まえた勤務計画作成の手順書等を整備する。

【勤務間インターバルの確保が実施できるような勤務計画】

計画策定時点での取組実績	なし
計画期間中の取組目標	長時間労働医師については適切に面談及び当直回数削減の検討など行うことで、インターバルが確保できるよう努めている。

【代償休息を期限内に付与することができるような勤務計画】

計画策定時点での取組実績	なし
計画期間中の取組目標	勤怠システムにより長時間労働医師の休息の状況を確認し、必要に応じ指導している。

【副業・兼業先までの移動時間を考慮し、休息の時間を配慮した勤務計画】

計画策定時点での取組実績	なし
計画期間中の取組目標	副業・兼業先までの移動時間を考慮し、休息の時間を配慮した勤務計画作成の手順書等を整備する。

【勤務計画について、事務の統括部署が主体となった体制でダブルチェックを実施する体制】

計画策定時点での取組実績	なし
計画期間中の取組目標	一部長時間労働医師については勤怠状況を把握している。医師全員の状況確認については今後の課題となっている。

(10) 医師の労働時間短縮に向けた研修・周知の実施

【医師に対しての勤怠管理等の周知】

計画策定時点での取組実績	なし
計画期間中の取組目標	医師に対して、勤怠管理や当人が実施すべき内容（始業・退勤時刻の申告、副業・兼業先の労働時間の申告、時間外労働の自己研鑽部分のルール確認等）について、少なくとも年に1回周知する。

【医師に対しての勤怠管理等に関する研修の実施】

計画策定時点での取組実績	なし
計画期間中の取組目標	BC 水準適用医師に対しては、勤怠管理や当人が理解すべき内容（始業・退勤時刻の申告、健康管理の重要性、面接指導の受診、勤務間インターバル確保等）に関する研修を年に1回は実施する。

(11) タスク・シフト／シェアの実施

【医師以外の職種へのタスク・シフト／シェア業務の適切な推進】

計画策定時点での取組実績	なし
計画期間中の取組目標	医師以外の職種へのタスク・シフト／シェア業務の適切な推進のために、働き方改革委員会の設置規程を整備する。

【関係職種への説明会や研修の実施】

計画策定時点での取組実績	なし
計画期間中の取組目標	働き方改革委員会内に多職種の委員をおき、委員会内で働き方に関する知識等を共有している。

(12) 医師の業務の見直しの実施

【休日の勤務体制に係る労働時間短縮のための取り組み】

計画策定時点での取組実績	なし
計画期間中の取組目標	医療機関全体において、休日の勤務体制について労働時間短縮のための取組を少なくとも一つは実施する。

【医師本人への労働時間の通知方法】

計画策定時点での取組実績	なし
計画期間中の取組目標	新たに導入した勤怠システムにより医師が自身の労働時間を把握できる仕組みを作っている。

(13) 患者・地域への周知・理解促進への取組の実施

【近隣医療機関との病診連携】

計画策定時点での取組実績	なし
計画期間中の取組目標	近隣の医療機関に対し、病診連携等を意識した協同のメッセージや密なコミュニケーションを実施する。